

小野 あずさ

卓トレ、卓比べ

この5年間でフリーランス照明デザイナー、またはプログラマー/テクニシャンとして働いたロンドン43劇場(小中大スケール演劇、ミュージカル、ダンス、オペラ劇場を含む)のうち、36劇場がETCの卓、3劇場がGrand MA、3劇場がZero88、1劇場がChamsysでした。5年以上遡ると、Strand 卓が存在していたのですが、それらはほぼETC卓に買い換えられています。自分も使い慣れているETCの卓の現場では、安心して仕事に集中できますし、照明デザイナーとして働いているときは、卓がどのような機能や性質をもっているかを理解していれば、プログラマーに指示が出しやすいものです。

今後は、演劇はもちろん、他種のジャンルでも活動の幅を広げていきたいと考えているので、もっと新たな卓も学ばなければと思いました。ファッションショーや展示会、コンサートやイベントの仕事になると、大体Avolites、High End Systems、Chamsysが使われており、ETC卓はいっさい見かけません。早速、AvolitesとHigh End Systemsに連絡をとり、卓のトレーニングの予約を入れました。Avolitesは3ヶ月待ちでようやく予約が取れ、High End Systemsはすぐに予約が取れました。

Avolitesの本部はロンドン北西インター横の工業地帯に位置しています。トレーニングは2日間(1日目はビギナーレベル、2日目はアドバンスレベル)＝2日間で£70(約1万円)、1日だけ参加したい場合は£50(7千円)＋ランチのサンドイッチとドリンク付き。朝10～夕方5時半まで。参加人数はその日は6人で、そのうちの数人はヨークシャーから泊まりがけで来ていました。もう一人の方は、フィリピン人のイベント担当の技術者で、このトレーニングのためだけに、わざわざフィリピンから出張して来たそうです。なんというお金持ちな会社なのかしら…。自分はバイクで自宅から15分かけて来ていて、誠にラッキー!…と密かに思っていました。トレーニングの部屋は、Avolites本部の建物の中の一室で、卓は全部で4台(Sapphire Touch、Tiger touch 2、Quartz×2)。とてもフレンドリーなトレイナーのレベッカ・ハーディングさんが、Avolits初心者の自分に2日間丁寧に基礎から教えてくださいました。初めに配られたクイックユーザーガイドブックにひたすら、自分の言葉でキーポイントを書き込みながら、次から次へと出される課題をこなしていきます。カチカチいうボタンの音が気にならなくなった頃、チェイスステップのアンフォールドの仕方を学びながら、なんとシンプルでわかりやすいプロセスなのかしらと、感心しながら夢中になっている自分に気づきました。グループごとに端の灯体から逆端の灯対へのカラーグラデーションの作り方はまさに直截簡明!これは、コンサートやイベントで重宝されるわけだと、納得しました。キーフレームシェイプでエフェクトを細部まで簡単にコントロールできるようになっているので、複雑なエフェクトも作りやすい卓だと思いました。もっと練習を積み重ねて、是非、次回のコンサートまたはイベントのお仕事で、使ってみたいという気持ちになりました。2日間のトレーニング終了後は、参加賞として、Avolites Tシャツとリュックサック、そしてビギナー/アドバンスコース終了証明書をいただきました。

High End Systems Hog4トレーニングは、ロンドンから西へ、電車とバスで2時間近くのところにある、工業地帯のあるオフィスの一室で行われました。このトレーニングはHigh End Systems本部で行われているのではなく、Hog4を取り扱っているAED Distributionという会社が、High End Systemsから依頼を受けて行っているトレーニングだそうです。トレーニング代とランチは無料。トレイナーはフリーランサーのコリン・ウッドさん(イギリスHog4のメインテクニカルサポーター)。こちらのトレーニングも2日間(ビギナー/アドバンス)。仕事の都合で、自分はまだビギナーしか参加できていませんが、1日だけでもとても濃厚な内容のトレーニングでした。

卓の売り上げに関わっていないコリンさんは、この卓の良い部分も悪い部分も、オープンにお話ししてくれました。間違えてアンパッチしてしまうと、そのアンパッチされた灯体は、レコーディングされたキューから抹消されてしまうという怖いお話も聞きました。この卓で何よりも使いやすいと感じたのが、シンタックス。StrandやETCの卓でスタートした自分にとっては、コマンドラインでやりたいことを打ち込むという作業は、一番信頼できるプログラミングプロセスだと感じます。慣れてくれば、コンピューターでチャットをしているような感じで、直感で打ち込むことができる卓だと思います。コリンさんもおっしゃるとおり、Source > Command > Destination、この文法さえ守れば、Hog4は使いこなせるのだそうです。また近いうちに、アドバンスコースに参加してHog4の魅力を探ってみたいと思います。



Hog4 トレーニング



Avolites Titan トレーニング



Avolites ウェアハウス ツアー